

タウンミーティング 会議録

日 時：平成 18 年 11 月 22 日（水）19:00～20:55

場 所：黒部市中央公民館（浦山）

テーマ：「新生黒部市のまちづくり」 ～総合振興計画策定に向けて～

参加者：82人

【事務局】

それでは、定刻になりましたので、ただいまから平成 18 年度黒部市タウンミーティングを始めさせていただきます。皆様ご案内のとおり新市誕生後初めてのタウンミーティングということで、今回は市内 4 カ所、中学校校下ごとに開催しております。

今回のテーマは、「総合振興計画の策定に向けて新生黒部市のまちづくり」ということでございます。最初にこのテーマにつきまして堀内市長からご説明申し上げます。この説明には約 25 分くらいかかるかと思っております。その後、順次会場の皆様方からご意見を承りたいというふうに思っております。

なお、本日受付の方で黄色いアンケート用紙お配りさせていただきました。この用紙にお答えいただくと共に、実際発言なされない市民の皆様からもたくさんご意見をいただきたいというふうに思っておりますので、日頃感じておられることをそちらの方にお書きいただき、お帰りになられる時には係の者に渡していただきたいというふうに思っております。

それでは堀内市長からご挨拶とテーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。市長よろしくお願いたします。

【市長】

詳細については、「市長あいさつ及び下記の課題について（提起）」をご覧ください。

【事務局】

それでは、これから会場の皆様からご意見、ご提言をお受けいたします。発言される方は挙手をお願いいたします。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前に続きご意見等述べていただきます。

それともう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは、限られた時間の中でできるだけたくさんの皆さんからご意見を頂戴したいと考えております。ご発言はなるべく簡潔に一人 3 分を目処にお願いしたいと思います。それでは振興会にお願いをして、あらかじめ発言の旨をうかがっております。4 名の方順にお願いしたいと思います。まず初めに宇奈月温泉地区の A さんからお願したいと思います。A さん、よろしくお願いたします。

【Aさん】

宇奈月温泉地区の A と申します。本日は宇奈月、内山、音沢の 3 地区の代表ということで、2 点ほど発言させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

まず 1 点が、交流人口の増加による新たな地域活動の創造といった点で、宇奈月温泉街といたしまして長年の懸案事項でもございました新温泉会館の建設について、第 1 次黒部市総合振興計画の中に是非とも盛り込んでいただきたいということでございます。現在の温泉会館は設備的にも老朽化が激しく、国際観光都市を目指す黒部市にとりまして十分なものではないということは、皆さんが充分認識されているこ

とだと思えます。是非とも具体的な実施計画として前期5カ年に完成すべく、早急な対応というものを考えていただきたいとお願いいたしたいと思っております。

その際、建設場所等につきまして、新川荘、現の宇奈月公民館の敷地周辺が候補として上がっているわけでございますけれども、その箇所での建設推進への問題点はこういったものがあり、そういったものをクリアするためには何が必要なのかを是非進めていただきたいと思えますし、また、駐車場がどうしても温泉街には少ないというのも問題点として挙げられるのではないかと考えています。

また、新温泉会館の形態として、公民館機能も盛り込んだ、かなり大規模な計画がワーキンググループより、昨年末答申されました。私もそのワーキンググループに入っておったわけですが、将来的な維持管理体制の構築も含めて、本当に必要なもの、そして観光の目玉、観光客のニーズに合ったものを見極めて建設していただければ何よりではないかと。負の遺産を残すことはあってはならないというふうに思っております。

そしてまた前回の答申では、温泉入浴施設部分は国の補助金が適用されないということでありましたが、新しくそういったまちづくり等に適用される補助金制度等も見据えながら、是非早急な検討というか実現をお願いしたいというのが1点でございます。

次に、安全で安心して生活できる地域体制の強化という部分で、旧宇奈月小学校区の児童の電車通学に対する長期的な安全対策を是非ともとっていただきたいということです。ご存知の通り、旧宇奈月小学校区で宇奈月温泉、内山、音沢地区の児童というのは、全員で32名ほどではございますけれども、地鉄電車で浦山まで今通学しております。しかしながら地鉄は今、宇奈月温泉駅以外は全て無人駅になっておりますし、電車もワンマン体制で運行しておると。また浦山駅自体も交換駅でホームがたいへん手狭で非常に危険であるということで、PTAの方でも非常に不安に思っております。現在は低学年の児童と帰る際には学校から浦山駅の方まで見回りを保護者で持ち回りでやっちはいるんですけども、どうしても平日なものですから職場を休んでいかなければならないと、長期的にこういったことが続ていかなければならないんだという不安がありますし、またこの冬、12月の中旬ぐらいからですけども、下立、栃屋地区の児童も電車通学を冬期間だけするというような話もございまして、そうすると一時的ではございますけれども、浦山駅に80名近くの児童が乗り降りするということがございます。教育委員会の方には、現在、宇奈月小学校として要望事項等を既に提出してはありますけれども、是非、地鉄担当者等を交えた形で、ホームの増設ですとか保安員の確保、あるいは電車で車掌を乗っけてくれるとか、そういった部分で是非とも抜本的な児童の安全対策、何かあってからでは遅いですから、是非そういったものを早急に考えていただきたいと思っております。

あと最後、これは他の地区から出ているお話でありますけれども、各4つの小学校の跡地の問題です。取り壊しの時期ですとか、あるいは今、体育館だけは残すという話があるそうですけれども、そういった部分の体育館自体の耐震強度が満たされていないという問題もあるそうで、そういった部分も是非とも、特に内山地区を中心に要望が出ておったことを付け加えさせていただきたいと思えます。以上2点発言させていただきました。よろしくお願いいたします。

【市長】

ありがとうございました。

まず新温泉会館の建設、総湯会館というふうにいわれておるようでありますが、この件については、先程も少し触れましたが、新しい黒部市になりまして、山から海まで一本につながった大きな市になったわけでありまして、この中で本当に観光振興というものは、たいへん重要な政策課題であるというふうに考えております。それぞれたいへん素晴らしい観光資源を持っておりますので、これを広域的な観光に広げ

ていかなければならないというふうに思います。そしてまた新幹線の駅、富山県に3つできる駅の1つが黒部にできる。県東部の玄関口、そしてまた、この新川地域の観光の交通の拠点として整備しなければならないというふうに考えておりますので、観光というものは非常にこの新市にとりましても重要であるというふうに思います。

そういう中で、この宇奈月温泉地区で宇奈月温泉街の土地再生整備計画。今年の3月にまとめられたこういう計画書があるわけでありましたが、この中に総湯会館というものが明記されておいて、具体的な計画が書かれております。新市になりまして、当然これらの計画を私は引き継いだというふうに思っておりますし、今、黒部市が観光振興計画を今年度中に新市としてまとめる作業を行っております。その中でも総湯会館というものが位置付けされているということでありまして、先程から言っております第1次の黒部市総合振興計画の中で、6つの分野に総合振興計画は分かれておりますが、その中の1つの分野に観光振興ということで、総湯会館というものが今議論をされて位置付けされる予定になっております。そういう計画の中で、これからできるだけ早く進めていかなければならないのではないかというふうに私は思います。

ただ、どういう問題点があるかということでありまして、宇奈月公民館、そしてまた新川荘の場所が適当ではないかという計画でありまして、新川荘は新川広域圏の施設であります。今、指定管理者ということで本年度から3年間黒部市が運営を行っているわけでありまして、それらを当然解体しなければ新しいものができないわけでありまして、広域圏とどういう条件で移管を受けて解体するのか、解体費をどちらがもつのか、あるいは、それをいつ行うことができるのかというような問題があると思いますので、それらを協議させていただいて、この実現に向けて取り組みたいと思います。

それから駐車場、今の計画地に建てるとすれば非常に駐車場がやはり心配であります。宇奈月温泉全体もそうなんですが、駐車場が非常に少なく、これからその辺をどうするのかということをお客さんと、温泉街の皆さんとも含めて協議しなければならないのではないかというふうに思っておりますので、何かいいアイデアを出してもらって、シャトルで手前に止めてシャトルバスで送るとか、いろんな協議もなされておるようでありまして、それらを完成するまでには何とか対策を行っていかねばならないと思います。

それともう1つは、この内容であります。総湯会館の内容を見ていると、当然温泉街の方々は見られていると思いますが、スーパー銭湯とか健康プラザみたいなもの、富山市内あたりにもかなり数が増えております。かなりお客さんは、スパとかスーパー銭湯とかという高いグレードに慣れてきています。中途半端なものを造ると最初、しばらくはいいかもしれませんが、あとがたいへん重い荷物になる可能性がある。ですから、その辺どういう内容のものを、公民館施設も、あるいは医療設備、今の桃原診療所のそういう機能も含めたものとかいろんなことがこの計画書には書かれておるわけでありまして、本当にそれでいいのかということ、要は中身です。宇奈月温泉の方々にとってはこの計画は、それは素晴らしい計画かもしれないけども、お客さんにとって本当にそれでいいのかというようなことも考えております。

かなり流行も激しい世界でありますので、かなり内容については協議させていただきたい。やることについては、私は進めるべきだというふうには思っておりますので、是非その内容について宇奈月温泉街、あるいは黒部市のために造るのか、あるいはお客さんのターゲットをどういうところに持つのかということをしっかり考えていかなければ、やがて大変なことにならないかなというような心配もしておりますので、是非その点もいろいろご相談させていただきたいと思っております。

次に安全・安心のまちづくりの中の電車通学のことであります。正直なところ、このことについては、あまり私は詳しくは理解しておりません。今ほど言われた32名の生徒が電車通学、そしてまた冬場だけあります、下立地区の方を中心にまた増えて80人ほどが浦山駅を利用するということでもあります。

それぞれ無人駅である、あるいは駅が老朽化していると、あるいは駅から学校までの間、特に冬期間の安全対策どうするのか、各地区の要望の中では伺っておりますが、今ここで、こうできるといふ答えは今持ち合わせておりません。ですから、このことについては、Aさん、PTAの要望で教育委員会に出されたんですか。

【Aさん】

はい。

【市長】

それぞれの団体・組織から出されるのも結構ですが、できるだけ地区の重要要望の中にも冬期間の話は入っていましたが、夏場の日常的な電車通学の話は入っていなかったような気がいたしましたので、是非、地区全体の要望としてまとめていただきたいなというふうに思います。

この件につきましては、教育委員会とも相談しながら、またPTAあるいは地元の皆さんと相談しながらどういう対策を講じることができるのかということを検討させていただきたいというふうに思っております。

それから、小学校跡地の問題は...

【Aさん】

後ほどで結構です。

【市長】

そうですね。それでは、Aさんの質問2点については以上であります。

【事務局】

どうもありがとうございました。それでは続きまして愛本地区のBさん、よろしくお願いいたします。

【Bさん】

愛本地区のBでございます。私からは、公共交通の整備ということなんですが、愛本地区の地鉄のバスが廃止されて、ただいま入善町と朝日町からバスが来ているんですけども、これでは通勤時間帯等に間に合わないということと、これから高齢化社会になりますので、特に電車の方まではたいへん距離があるもんですから、市として何か電車の愛本駅までバスの運行を10年間の内に取り入れてもらえないかというように考えでございます。以上です。

【市長】

ありがとうございました。

コミュニティバスの現状、入善町のコミュニティバスと朝日町のコミュニティバスが宇奈月庁舎からそれぞれ泊の駅と入善の駅へ、それぞれ泊の駅は1日往復で7本、入善は3本出ているということでありませう。合併するまで知らなかったんですが、こういうふうに行われているのは、たいへんすばらしいなというふうに思っております。

そこで、先程もいいましたが、平成26年度末に新幹線が開業する予定であります。当然それまでに公共交通のネットワークを整備する必要があると。先程言いましたように、地鉄の駅は新幹線の駅に併設、

新しい駅を併設したいというふうには考えております。ですから新幹線で降りられたお客さん、あるいは地鉄に乗って新幹線に乗られる方、それをつなぎたいということ。そしてまたJRまでできれば引き込みたい。今のJRまで引き込みたいということもお話をしたわけではありますが、一方で今言われるように、今の高齢化社会の中で、それだけの鉄道軌道のネットワークだけでは不十分だというふうに思っております。やはりコミュニティバスを中心としたバスの公共交通を整備していきたいというふうに考えております。

そのためにはやはり、今の現状をいろいろ調査させていただいて、当然、県東部の駅として新幹線の駅を考えておりますので、それらを含めて、どのようなコミュニティバス、公共交通を整備するのかということについては、当然考えておりますので、できるだけ早く整備、それらの公共交通を実現していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

【事務局】

どうもありがとうございました。それでは3人目の方、下立地区のCさん、よろしくお願いいたします。

【Cさん】

下立5区の町内会長をしておりますCと申します。

冒頭に旧小学校の取り壊しとコミュニティセンターの早期建設についてということで、これは下立だけじゃなくて先程出ました宇奈月、愛本、浦山4地区に共通する課題だと思います。今日の冒頭に出ました新市のまちづくりに必要なことということで、「市民の一体感の醸成」、「市民と行政との協働」、「開かれた行政の推進」、これは全くその通りであると思います。ただ一市民の私の考え方、同じ面もあるんですが、3つ上げさせていただきますと、「住みよいまち」、「活力のあるまち」、「魅力のあるまち」、同じことかも分かりませんが、一市民からみればこういう考え方もあろうかと思えます。

小学校統合の件については、皆さんご存知だと思いますので省かせていただきますが、現在廃校となった小学校が教育委員会の管理下になると聞いておりますが、下立地区だけじゃなくて他地区の話など聞きますと、ガラスを夜中に割られたとか防犯上周辺の住民が非常に不安な状況下にあるわけでございます。宇奈月地区4地区は従来、小学校を地域の拠点として地域活動を執り行ってきたわけでございます。旧黒部市の平野部と比べまして積雪も非常に多い。住みよいまち、冬だけは非常に住みにくいという考え方でもできるわけですが、そういう中でも地域の住民が小学校を拠点として一体感を持って活力あるまちづくりに励んできたわけでございます。それが、今回廃校となったことによって地域の拠点を失ってしまったと。そういう非常に寂しい感じと、今後の地域活動が段々低下していくんじゃないかという懸念があるわけでございます。そういう懸念を除去するためにも1日も早く計画を策定させていただいて、早期取り壊し、そしてコミュニティセンターの建設をよろしくお願いしたいと思います。

聞くところによりますと、富山市におきましても合併特例債でいくつかの公民館やコミュニティセンターを建設するという事も発表されております。私の考え方とすれば、魅力のあるまちづくりのためには、先程説明のありました新幹線の駅や当然安全・安心のために消防庁舎、市庁舎の建設も必要だと思いますが、地域住民に根ざしたこういう小学校の取り壊し、それとコミュニティセンターの建設、バランスのとれた行政を行っていただければと思います。

それと関連しますので、先程、小学校の通学の話がありましたが、特に下立地区と浦山地区の一部になるかと思うんですが、冬期間、徒歩で通学する生徒がございまして、これらに対する除雪対策、先般もお願いしたわけでございますが、国道8号線、要するにずっと平野部と比べますと積雪の量がかなり違うわけでございます。除雪は去年並みにどんとやられますと地域住民も一生懸命やるわけでございますが、行

政の除雪体制の方も今まで以上のものをお願いしたいと思っております。以上でございます。

【市長】

ありがとうございました。

この4小学校の跡地の問題につきましては、各地区の要望会16カ所、宇奈月地区6カ所、黒部地区10カ所、16カ所各地区の要望会を開かせていただいた時にも、各宇奈月地区の皆さんから強く要望されておりまして、たいへん皆さん方のこのことに関する期待は大きいんだなということは痛切に感じております。

今ほど言われましたように、旧宇奈月小学校の施設の活用基本計画を今作っているわけではありますが、以前は、4小学校は順次解体して、その後、総合振興計画の計画に基づいて新しい施設を整備するというお答えをさせていただいておったんですが、皆さん方のいろんな要望、あるいはいろんなお金の制度の利用等を考えてみましたら、これはやはり、解体を先にして後から施設を整備するっていうことではなくて、解体と施設整備をセットにしなければいけないのかなというふうに考えております。それで、来年度から解体と施設整備をセットにして実施させていただきたいというふうに考えております。

但し4小学校ありますので、同時ではできません。年次的に順番にやらせていただきたい。その順番については、まだ決定はされておられませんので、どちらを先にやるかっていうことについては、もう少し検討させていただきたい。ですからこれまで言うておりました解体をまず行って、新しい施設については後からさしてくれていうことではなくて、解体と施設整備をセットでと。来年度から年次的に順次行っていくということで進めさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

それから除雪のことに触れられましたので、18年度の黒部市の道路除雪計画につきましては策定し、そしてまた、議会の皆さんにもご報告申し上げとったわけではありますが、これまでの旧宇奈月、旧黒部の除雪計画に基づいて行わせていただきたいというふうに思っておりますので、合併したから急に除雪体制が変わったということはありませんので、その点ご理解いただきたいというふうに思います。特に通学時の除雪のことについては、各地区の要望の時にたくさんお聞きいたしましたので、その点特に注意をしていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

【事務局】

よろしいでしょうか。はい、どうもありがとうございました。

それでは浦山地区のDさん、お願いします。

【Dさん】

浦山地区のDです。浦山の方からは、学童保育の実施をお願いしたいってことなんですけれども、浦山、栃屋は住宅地が多くて、現在共働きの家庭が多いです。特に小学校1、2年生の子供達が春休み、夏休み、冬休みはもちろん、毎日下校してからも一人で過ごすことが多いと思います。その間、交通量の多い道路で遊ぶってこともありますし、今、不審者という問題もありますので、親としては仕事をしながらも非常に心配です。

ここで3つ程質問なんですけれども、黒部市の他の小学校では学童保育をどのように実施しているかということ、2番目は近隣の市町村、魚津市、それから入善町では、どのように学童保育を行っているか。それから3番目に宇奈月小学校建設時に児童館スペースっていうのを併設して、そこで学童保育を行うというふうに聞いていたんですが、現在そういうスペースがあるかどうか、ちょっと分からないですし、行っていないようなんですが、その計画というのはどうなったのか3点お願いします。

【市長】

ありがとうございました。

学童保育、このことについても要望の時、たいへん多くございました。できるだけ早く実施できればいいなというふうに思っております。黒部市では今6地区行っております。石田、田家、大布施、三日市、東布施、荻生の6地区行っておりまして、そのうち4地区が学校内の施設を利用して行っております。2カ所が他施設、田家地区は学校の近くの公園にプレハブ棟を建てて、そこで学童保育を行わせていただいております。

2点目ですが、他の地区、魚津市が10カ所、入善町が3カ所、そして朝日町は現在のところ実施されていないということでもあります。そういう状況ではありますが、そこで旧黒部市でも小学校が10校あっても6校であります。条件が整ったところから実施させていただいております。当然、学童保育ですから保育として預かりますから無料ではございません。黒部市では条件があるんですが、大体1カ月3,500円から5,000円ほどの保育料いただいておりますし、当然その間の保険などにも入っていただいております。そして専門の方を大体4人程度雇用いたしまして、実際に保育として放課後保育を行っているということでもありますので、当然、受益者負担というものが出てまいります。

それから保育をみていただく方についても、やはり半分ボランティアのような格好でみていただいておりますので、そういう方々の協力体制が整うかどうかというようなことも当然あります。そういう学童保育の場所、あるいはそういう保育体制、そしてまたそういう負担に対するご理解、そういうものをいただければ条件が整ったところから実施しているというのが現状でございます。

それから、新しい宇奈月小学校の方でも学童保育の要望がございますし、今現在、体育館の横のミーティング室を学童保育施設として考えております。これまでの宇奈月小学校の計画の中では、児童館というものが隣接で計画もされておりますので、その児童館につきましては、総合振興計画の中で、教育施設の中で、いろいろ優先順位、何を優先するのかっていうたくさんの課題がございますので、それらを検討しながら、これから計画を立てていきたいというふうに思っておりますので、とりあえずは体育館の横のミーティング室を利用した学童保育が実施できればいいんじゃないかというふうに思います。先程言いましたように、条件が整い次第、実施させていただきたいというふうに考えております。以上です。

【事務局】

Dさんよろしいでしょうか。

それでは会場の方々からご質問、ご提言を受けたいと思います。今後10年の黒部市を見据えて、是非こういうふうなというご意見を賜りたいと思います。

どなたからでもお気軽に発言いただきたいと思います。どなたかいらっしゃいませんか。はい、男性の方。地区名とお名前をお願いします。

【Eさん】

はい、浦山のEと申します。数点お願いしたいと思います。ばらばらに質問しますけど申し訳ありません。一つ提言なんです、広域観光を目指すということで、私は、目に見えるもの、とっても綺麗なものが好きなんです。この駅周辺から、それぞれの目的地、観光地に至る道中に観光農業というものを考えて欲しいなと思うんです。休耕田というようなところを花で綺麗に、緑で綺麗に、そして実りのあるもの、実るもの、こういったものはとっても目に美しいと思います。そういったところで農業を観光化させて、是非振興して欲しいなというふうに思います。

次に安全と安心ということです。一つは、さっきから出ていますが、旧宇奈月町の緊急時の避難場所としての小学校があったり公民館があったり、あるいは公園があったりしているわけなんです、実際の災害ってものを具体的に想定した避難場所であるのかどうか。それに合致しているのかどうかってことを見直していただいて、より良いもの、安全と安心をそこに充分預けられるものを構築して欲しいなというふうに思います。

次に、同じように安全と安心なんです、この頃ちょっと話題になっとります、いじめという問題について、市長さんのみならず教育委員会の方ではどのようにみておられるのかなということもお聞きしたかったわけでありまして。

最後になりますが、この総合計画を推進するにあたって、たいへん財政厳しい中だと思っております。ですから、効率のいい行政を目指して欲しいということをおっしゃるわけですが、あげ足とるようでちょっと悪いんですが、今月の広報と市議会だよりの第2号、こういうふうに、両方に2ページ割いて市議会議員さんが新しくなったということをお知らせされています。各家庭に同じものが必ず来るわけなんです。同じ内容のページがあるっていうのは、しかもトップを飾っております。たいへん、こういうところに抜けがあるのかなと。人間誰しも抜けはあると思うんですが、特に財政厳しい折だということをおっしゃるのと同じように伺っておりますので、是非ともこういう、これ僕無駄だと思っております。こういうことのないように、目を充分光らせて欲しいなと思っております。以上です。よろしくお願いいたします。

【市長】

ありがとうございました。

まず、広域観光のことで観光農業、たいへん素晴らしい、いいアイデアだというふうに思っておりますし、観光農業あるいは体験型の農業っていうものが盛んに言われておまして、私も例えば、今話題の黒部青少年の家の上に市の土地が随分ございます。丘陵地でございますが、昔は、年配の方はご記憶あると思いますが、あそこで芋畑をやっていたということでもあります。あその場所を利用した観光農業、あるいは体験農業などができればいいんじゃないかということで、実際、担当課に話をし、いろいろ検討もさせてみたりしているわけですが、なかなか実際に行くということでは、いろんな条件があって難しいところもございますが、是非今言った阿古屋野の場所とか、あるいは新駅周辺に果樹園などもいくつかありますので、観光果樹園などを行ったらどうかということ、あるいは宇奈月地区の中にも休耕田などがありますし、また果樹園などもありますので、ああいう場所を利用した観光農業、体験型の農業を行うことができればいいなというふうに思っておりますので、その辺は農業、果樹の関係の方といろいろ相談をさせていただいて、新駅周辺にそういうものがあるということが大きな魅力になると思っておりますので、よろしくまたご指導いただきたいというふうに思います。

それから安全・安心の話で、避難場所の話、これもたいへん重要な話でありますし、旧黒部では黒部川流域洪水ハザードマップを昨年、全戸に配布いたしました。そこには、どの町内はどこに非難するっていうことを全部明記してあります。何人、どこへ避難するということが明記されていて、それを見た方、今日、宇奈月地区の方ですからちょっとお分かりにならないところがあるかもしれませんが、そこには全部避難場所が書いてあるんです。ところが、それはあくまでも家にいたらそこへ行ったらいいってことが書いてあるので、いつ災害が起きるか分かりませんから、学校へ行っている、勤めに行っている、どこでどういう状況で起きるか分かりませんから、いろんな避難所を想定する。しかも避難所っていうのは、一つの町内が同じ場所に入れるということを前提にしております。近くにもっと避難所として相応しいところがあるのではといわれる地区も一杯あるんですが、町内全員が入れないと。500人の大きな町内、黒部市で一番大きな町内は500軒ありますから。それを分けて入れると、いろいろ安否の確認が取れなかったり、

いろんな不都合がございますから、500軒の人は、そうするとかなり離れた大きい施設へ行くと。近くに公民館があるのに何で行けないのかと。そこで、どういうことかと言いますと、どこにどういう避難場所があるってことを、自分あるいは家族の皆さんがお互いに事前に知ってもらわないといけない。知ってもらっていざという時には、その時の状況で応用してその避難所に避難してもらおうと。家族全部揃って行かないと、それは揃っていけばいいけど、いざという時は、とにかく避難所のことをしっかり理解をいただいている、そこを利用してもらおうというようなことも必要でありますので、今現在、宇奈月地区で避難場所が想定される場所、私ちょっと今、頭の中にはございませんが、避難場所っていうのは、計画書や絵に描いてあるところだけでは上手くいかないということが現実であります。場合によっては近くのコンクリートの建物の2階に避難したほうが一番安全というような場合がいくらでもございますので、書かれたところだけが避難所、それは当然理解していただきながら、後は応用する。応用するにはやはり家族でそういうことを定期的に話をする機会を作ることが、たいへん重要ではないかというふうに思っております。

次に、いじめの問題であります。このことについては他人事ではなくて、当然、この黒部市の中でも起きうるもの、起きているものというふうに理解をして、その対応をしなければならぬというふうに思います。いじめというのは、昔から喧嘩やいじめは子供の世界では我々もあったと思いますが、段々陰湿になっているし、人の命の大切さっていうものは、段々希薄になっているというふうに思っております、本当に憂慮すべきことだろうというふうに思います。先日、何か読んでいた時にも書いてあったんですが、人権が尊重されすぎて、人権というのは誰のものでかかっていうことになると、やはり自分自身のものなんです。自分にとって大切なものは人権であるというふうに考えます。ですから、子供のしつけ、あるいは悪いことしたらしかるっていうこと、それは、その子にとって必要だからやる場合はあります。親が子供を叱るとか、あるいは先生が子供をしかるとかかっていうのは、やがてのしつけのためにやらなければならない。でも、すぐに人権を侵害してそこで優しくすることが、やがて、その子にとって良くないことなんだけれども、あまりにも人権にこだわり過ぎて少しおかしな社会になりすぎたのではないかなというふうなことも思います。とにかく人の痛みの分かる子供をしっかりと育てていかなければならない。そのためには叱る時は叱る、しつける時はしつけることをしっかり皆で、家族だけじゃなく、家族もそうですし地域で、やっぱりそういうような社会を取り戻すように努力しなければならない。これは戦後60年かかってこういう社会を我々が創ってきたんですから、それをやはり正しい社会に戻すには、またそれぐらいの年数がかかるのではないかなというふうにも思ったりしますので、ただ、地道な努力が必要だというふうに思いますので、ご理解いただきたい。そして、教育委員会に関しては、とにかくきちっと子供に目を向け、そして何が起ころうとしているのかっていうようなことをしっかりと理解する努力は、本当に徹底して教育委員会にはお願いしていかなければならないというふうに思いますので、それと、起きたらきちっと皆さんにできるだけ早く、家庭なり学校の中あるいは教育委員会の中でしっかりと公表して相談してかないと、なかなか表に出ないということになれば、かえって悪い状況になるのではないかなと思いますので、その点も気をつけていきたいというふうに思います。

もう1点は、効率の問題で、市の広報と議会だよりで同じものを載せているということでもあります。おっしゃられるとおりかもしれませんが、編集者が全く違いますし、議会で制作されるものと市当局で作成するものと全くメンバーも時期も少し違いがありまして、片方だけに載せるっていうのは、今回の場合はどうなのかなというふうなことも、ただ一緒に配布されていると言われればその通りでございますので、その点は、また議会の編集の皆さんと我々市の担当者と相談をさせていただいて、そういう場合にはどうするのかということ、これから相談をさせていただいて、また判断していきたいというふうに思います。

【事務局】

Eさんよろしいでしょうか。それでは、次の方。

【Fさん】

下立のFです。安全パトロールということで4月からやっているんですが、それ以前に、この裏の舟川沿いのところを改修されて手すりを付けていただいたことには本当に感謝しておりますし、以前、通学路と設定された旧県道、これの冬対策について、これは川の水を使っているんです。その中で、先ほどもCさんが言われたように、旧黒部市と旧宇奈月町では雪の量が、一度量ってもらえばいいんですけども、全然違う。それと、温度差も1度か2度は最低違うと思います。その中で、川の水を使いながらこう融雪しているから、路肩に溜まる雪がみんなせり出して道路の中まできている。融雪している間のところしか空かないと。その中で、子供達が旧県道を通学路とする場合、どういうふうな交通安全対策をとられるのか。その雪を撤去してもらえるのか。そういうことが1点です。

その他に、今、下立2区、3区の子供達が12月11日から電車通学するということがPTAの方で決まったんですけども、それについては必ず料金がかかります。その料金、宇奈月から音沢、内山の子供達は元々通年です。そうしたら、もう下立の子供達と栃屋からの子供達が、もう1カ月4,000円くらい、3人いれば1万何千円というくらい、それを3カ月とすると相当な金額になるんです。そういう自己負担、まあ半額という話にはなっとります。その自己負担については何で助成がないのか。助成ができないなら一つはスクールバスの運行の見直し、冬になったら中学生も乗ることになりますし、その時間帯の調整をとりながら、例えば下立1区から来るバス、それが12名ほどの子供達だと思います。それをちょっと5分ほど早くして、学校に寄って2区、3区の子供達を乗せる。また大型バスの方にするとうちの方回って学校に入る。何か運用の仕方に方法はないか。そういうことを考えていただきたいなと。これもPTAの皆さんとは、しょっちゅう話して教育委員会の方も、その旨は重々分かっていると思いますけども、何か一つの方法として、ただ、通学のその料金についてもどういふふうにすれば、半分が市で助成するかなというお話だと思います。片方はバスに乗ってくる時、子供達は無料でしょ。では、片方のその子供達は2kmという設定の中で、それは文科省が決めた設定でも、全域の子供達を歩かせるのも一つの方法ですけども、その中で何かこういう方法がないかということを検討していただきたいなと思います。よろしく願います。

【市長】

ありがとうございました。

今ほど2点ほどご質問いただいたんですが、適切な答えは今の段階で持ち合わせておりません。旧県道のまず融雪が川の水で冷たい。雪の量が多いからなかなか解けない。そして、横に溜まった雪が道路を川のようにしている。歩きづらい。車が来れば水を跳ね、そしてまた、安全対策が上手くいかないということなので、これは地区の方からも要望として伺っておりますが、これまでもそうだったんでしょから、もう少し何かこうしたらどうだっというアイデアが出てこないかと思うんですが、何とかしてくれ何とかしてくれて、なかなか難しいんですが、私もこのことを何度かお聞きしましたが、もう少しどういふ対策がとれるのか、具体的な方法で、この方法で検討してくれっというような方法をいくつか具体的にアイデアを出していただいて、その中で検討するような、そういうようなことを少しさせていただきたいなと、要望とすれば充分よく分かります。特に子供達の朝の通学時はたいへん危ないということも理解できますので、どういふ対策をすればいいのか、その対策も、できる対策じゃないと、全部路肩にある雪を子供達が来る前に全部どかせと言われても、それは、いつどれだけ降るか分からない中で、なかなか現実

的ではないなというふうなこともありますので、少し時間があればそういうことも可能なのかもしれませんが、それでは、なかなか安全対策につながらないと思いますので、もう少し研究させていただきたいというふうに思っております。

それから冬の通学のことであります。2 km 以内の子供については、半額負担してくれということだろうというふうに思いますが、これもできればスクールバスなりで全部送り迎えすればいいのかもしれませんが、それが宇奈月地区だけを見れば、それはそれで、それも本当は少し苦勞して歩くことも大切だということも実は理解しておりますし、旧黒部地区でも 3 km 以上歩いて通っている小学校 1 年生の子もたくさんあります。黒部川の近くの子は中央小学校まで 3 km 以上あります。それでもスクールバスもなければ電車もない。当然、親の送り迎えは多少あるかもしれませんが、集団登校させていますので、だいたい歩いています。集団登校の中に一人だけバスや車で送ってもらうってということも、なかなか子供達も嫌がって大体歩いております。そういうようなことも考えながら、この下立地区などの冬場の通学に対してどうすればいいのか。そのバスを回せばいいのか、電車で来ればいいのか、PTAの皆さんとか教育委員会でいろいろ協議されたと聞いております。その結果、今回はこういうふうな決めをしたということですので、もう少しこの一冬見させていただいて、どういう方法があるのか。去年は雪が特に多かったものですから、たいへん皆さん心配しておられることも理解できますので、もう少しこの辺についても検討をさせていただきたいというふうに思います。申し訳ないんですが、こうしますという具体的な返事は今できませんのでよろしく願います。

【事務局】

Fさん、よろしいでしょうか。

【Fさん】

すいません。路肩の雪をどうにかするっていう話じゃなくて、一つの方法として公安委員会の方をお願いしていただいて、児童の通学時間帯、朝は右側通行ですから右側の方の車線をもう止める。何かそういう対策でもいいから、なかなか公安委員会は、そういうことしてくれないだろうと思いますけども、行政側から何かそういう方法もとりながら、公安委員会に検討していただければいいかなと。そういうふうに考えております。またよろしく願います。

【事務局】

それではご発言なさりたい方。はい、挙手をお願いします。はい、それでは。

【Gさん】

愛本地区のGと申します。よろしく願います。

先程からお聞きしました新庁舎の問題と、それから、よく私はバイオマスタウンということで言っていますので、それについてちょっと要望をしたいと思っておりますのでよろしく願います。

まず新庁舎の問題です。私も今初めて聞いて、平成 29 年ということになりますと、これから 10 年後ということは、余りにも遅いんじゃないかと。もう少し早くしていただきたいなと思うわけです。やはり庁舎というのは、市のシンボルかと思うんです。私も東京、大阪その他いろいろ行ってまして、やはり 20 階、40 階のそういうビルで打ち合わせをすると、やはり非常に情熱と緊張感の方が出て、そして、やる気充分というふうなこともなりますし、今、市のそういう方にも情熱持って効率よくやってもらうということにも、新しい庁舎がいるんじゃないかと。

もう一つは、私も分かりませんでしたけど、今、旧宇奈月庁舎と旧黒部庁舎を半年で4千回以上往復しているとの説明を聞きましたんで、本当に効率が悪いなと。これが、10年間続くということになると、まだまだ何十倍かしなければならぬということなんで、もう少し早期に新庁舎を建設していただけないかということの一つの要望事項です。

それから、私の要望の本論なんですけど、前から言っていますけど、黒部市というのは自然の素晴らしい環境のまち、市だということなんですけど、今後、住民が住んで、さらにより良い環境のまちというふうにするためですが、現在、国を挙げてバイオスタウンという構想を挙げています。全国で100の市を創りたいということが言われていて、大体、約50いくつが委員会で建設した、創った、あるいは名を挙げたということ、この間、農水産省へ11月の初め、ちょっと前ですけど行ったら、そうおっしゃっているわけです。

バイオスタウンというのは、皆さんの家庭から出るゴミ、宇奈月温泉街から出る残飯、老人ホーム、学校から、あるいは会社から出るいろんなゴミ、それから最大は黒部川の流木の問題、それともう一つは枝、そういう物をいかにして処理するかと。そういった工場というのは、全国でいろいろつくられているわけです。私も北海道へ行ったり新潟へ行ったり、それから京都とか神戸へ行ったり、あるいは横浜へ行ったりして、いろいろ見学したりして、やはり、きちんとやればそういう環境に良いまちづくりができるんじゃないかということなんで、そういった新しい環境の工場をつくるということ、同時にそれは先程おっしゃったようなYKKが環境企業ということでやってこうということならば、そういった工場も利用するとかして120mのやっぱり建屋がいるわけなんですけど、そういったことでやはり観光客にも、宇奈月に来たら宇奈月温泉街の残飯はそういう工場で整理して、それを電気エネルギーにするとか、肥料にするとか、家畜の餌にしたり、ということを引きちゃんと見ていただくということをするれば、観光にも通じるんじゃないかと思っておりますので、是非そういうことを要望したいと。

それと、もう一つは、そういうものをやるには国が50%は必ず補助します。それから、こちら辺は北陸農政局に頼めば無料で全て調査いたしますということもおっしゃっておりますので、そういうことを今後また検討していただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

【市長】

ありがとうございました。

まず庁舎の件でありますけど、これは平成29年までにやるっていうことではなくて、新しい平成20年から29年までの総合振興計画の中で、投資的な大型事業っていうのはいくつもあります。その中で、時期が動かせないのは、平成26年の開業予定である新幹線、この時期は我々が判断することはできない。その駅周辺整備が議会でも答弁しましたが、40数億円かかるだろうという予想をしております。それが約開業前3年間ほどで駅周辺整備はおおよそしなければならぬんじゃないかと。

実際は、地権者の調整とか、要は土地の取得とかそういうものについては、もっと早くから始まりますが、実際の目に見える工事っていうのは、その前の3年間、そこに大きな予算がかかる。そして他にも、さっきから跡地の問題とか総湯会館の問題とか、いくつもいろんな事業がある中で、実際その新市の建設計画の中で、見られた方おられると思いますが、今後10年間で投資的経費を新黒部市がどれだけできるかと。315億円って書いてあったんです。単純に割れば1年間で31億5千円です。それは全ての投資的経費を入れてありますが、それをどのように活用するかということ。ですから、そこを10年間きちっと、特に大型事業は、きちっと整理をしなければ、いつかやろうなんて思っていたらなかなかできない。そこで新幹線の開業のその駅周辺整備を真ん中に置いて、前なのか後なのか、重なることはなかなか難しいだろうというようなことの中で、これからその振興計画重点項目について整理をするということでもありますから、

庁舎についてでも、そういう中で位置付けがされるものと思います。

それから10何階建てのビルという言葉が出ましたから一言だけ言いますが、私は、庁舎っていうのは権威の象徴的な、余りにも立派なものは必要ないというふうに思いますので、黒部市に相応しい規模と内容で整備をすべきというふうに思っております。

それからバイオスタウン構想につきましては、実は検討いたしております。黒部市におきましても、産業経済部、下水道、市民生活部それぞれ関係あります。先程、説明されましたから時間もありませんので言いませんが、3つの部でプロジェクト的なチームを作って今、検討しております。そして、この黒部市にとっては大きなチャンスがございます。それは、平成21年までに下水の処理場の方で汚泥濃縮棟の増築を一昨日の議会でも予算を議決いただきましたが、ちょうど整備しなければならない状況の中で、そこにバイオスタウン構想を持ち込んで、生ゴミとか発生ガスとかそういうようなものをしっかり検討して、そのバイオスタウン構想の計画を今、着々と練っているところであります。是非、今がチャンスだというふうに思っておりますので、またGさん、たいへん詳しいということもよく聞いておりますので、いろいろとご指導をいただきたいと思っております。

【事務局】

よろしいでしょうか。

【Gさん】

もう一つだけ、新幹線のことをおっしゃったので、やはり、新幹線というのも、我々「のぞみ」に乗っていると名古屋から東京まで停まらないと、静岡なんかは通過するので、「ひかり」に乗って行かなくてはならないと、こういうこともあるんで、これから新幹線が通っても、黒部駅に何台停まるのか、できるだけたくさん止まってもらうような要望をPRしてかんなんじゃないかと思っておりますので、よろしく願います。

【市長】

ありがとうございました。せっかくそういう話をされましたから簡単に。

今、1日の乗降客は2,700人想定されております。これは、新川地域の今のJR線の特急の利用者から割り出した数値であります。ですから、もっと広く、例えば新川地域だけの方の利用ではなくて、滑川、上市、立山町その方々の、例えば東京方面へ行く時に、富山駅へ行って乗るのか、あるいは黒部へ来て乗るのか、黒部へ来ていただいて、そして乗っていただければ当然乗降客も想定よりも増える。増えれば当然停まる本数も増える。

今、停まる本数は約8割が停まるというふうに言われております。2割は停まりませんが、そういう利用が増えることによって、JRは、はっきり言っております、お客さんが増えるところには全て手厚くするというのでありますので、是非、利用を増やしていただくような、アイディアもそうですし、皆さん方にもいろんな協力をいただきたいというふうに思っております。

【事務局】

よろしいでしょうか。次ちょっとお待ち下さい。先程から手を挙げておられる方。

【Hさん】

愛本新3区のHといいます。日頃お世話になってありがとうございます。

旧宇奈月町の時から、私のところの生産組合長が、町の農林課なりあるいは農業委員の方へ再三お願いしていても効果が上がらないもんで是非お願いしたいんですが、どこの地区でも同じだと思うんですが、遊休地の管理についてなんですけども、私のところには会社管理の土地が3カ所と造園さんが植木をやつとられるところは1カ所あります。それで、市の土地に関しては農薬いただけたり、あるいは地区の住民が協力し合って草刈りをして防除をしたりしてるんですが、7月以降、会社関係の管理地ですと自分達の暇な時期に草刈りをやっていたくもんですから、本当にやらなくてはならない時期を外すもんですから、水田に1回あたり70万から80万の農薬を地区全体にまいても効果が上がらないんです。

今年も私の地区で2等米が発生しております。1等米と2等米は、ご存知のように2,000円からの差が出ております。それで、今までもJAさんであるとか、あるいは広報等で草刈りをしましょうとか徹底しましょうって書いてあるんですが、これは、あくまでも一方通行なもんですから、なかなかこちらが要望する時期にはやっていただけなかったんです。ご存知のように、これから産地間もたいへん競争が厳しい。それよりも先程言いましたように、1俵あたり2,000円からダウンしますと、やっと米価が下がってきているのに農家は何のために米を作っているのか。検査をして、あんたとこ2等やったよ、あんたとこの地区2等、お前何百俵でましたよと言われるとたいへんな損失になってくるんです。

それで、是非お願いしたいのは、市の担当部署と農業委員が協力し合って、その管理者に対して何月頃と何月頃に草刈りなり、あるいは除草剤をまいてくれと。それは一方通行するんじゃないくて、地区の生産組合長なり農業委員さんの方に計画書を出していただいた時に実行されているかどうかを見ていただいて、されてなかった場合には、いや地区が困るとからこういうふうにして下さいということをお願いをもらうような体制をとっていただきたいんです。やはり地区の住民は1回か2回は言うんです。ところが何回もとなると、やはり普段顔あわすと、どうしてもいろんな関係で言えないもんですから、それを、是非来年度から実施していただけたら我々農家にとってはたいへんありがたい。苦しい中でもまた希望が持てる農業ができるんじゃないかと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

【市長】

ありがとうございました。

休耕田の除草の話だと思えますが、その辺がうまくなされていないということでもありますから、農業委員、生産組合長の皆さん、あるいは担当課とも少し相談をさせていただいて、基本的には個人の問題になれば、なかなか命令もできないんでしょうけども、しっかりとした指導をするように今話はしておきたいというふうに思います。

農業の問題もたいへん難しい時代に入りましたので、この多面的機能をどう活かしていくかということは、たいへん重要だと思います。来年度から担い手に絞られるということでもありますので、是非その点、兼業農家の方、あるいは小規模農家の方としっかりと連携をしながら進めていかなければならないだろうなというふうに思いますので、またよろしくお願ひいたします。このことについては担当課に言っておきますので、よろしくお願ひいたします。

【事務局】

Hさんよろしいでしょうか。

【Hさん】

ええ、よろしくお願ひします。

【事務局】

もう時間が過ぎとりますが、女性の、はい、よろしく願いいたします。

【Iさん】

浦山のIでございます。町並み景観について普段考えていることを話させていただきます。

今、市長さんから新幹線の駅ができることを伺いまして、駅ばかり綺麗であっても駄目なので、宇奈月温泉まで行くところの町並み景観というのを考えていただきまして、観光条例みたいなものを作っていて、瓦がいろんな色がありますので、そんな色なんかも統一したりすればどうかと。

それから、国際級の黒部峡谷の玄関口であります宇奈月温泉の町並みは、あんまり特徴がないと思うんです。仕事柄ときどき八尾の方へ行くんですが、日本の道百選というので、棧橋の方で石畳がありまして、そして格子戸でずーっと並んでいまして、とっても温かい気持ちになるんです。だから、宇奈月もそういったようなんじゃないかって、何か黒部峡谷だけじゃなくて宇奈月温泉はこんなのあるんだといったような町並みとか、それからバスなんかたくさん通りますんで、道なんかも穴あいたりとかもしてくし、家なんかもばらばらの色じゃなくなって統一されたようなもので観光条例みたいなものを作っていて、今から整備されたらどんなもんでしょうかと普段思っています。

【市長】

観光条例ということです。

駅周辺整備には景観条例が作られる予定であります。色とか高さ、建物の高さの制限なんか出てくるわけではありますが、先程、新幹線までのアクセス道路の中で、宇奈月地区の方はまだちょっとよくご理解いただけないかもしれませんが、8号バイパスが新幹線開業までに、魚津の江口から黒部川の四十八ヶ瀬橋、あそこまで新幹線開業までには供用開始、完成するというので、国の方に働きかけながら行っているわけではありますが、そこから新幹線の駅まで真っ直ぐ背骨道路、新駅中新線という道路を今計画しております。4.7km あるんですが、それを、ただの道にするのかという議論を担当課の中ではしております。観光地黒部、黒部らしい、あるいは宇奈月温泉に通じる海から宇奈月温泉までの象徴的な道路を1本造って、今言われるような一つの日本の道っていいですか、ある人は桜って言うておられますが、桜がいいかどうかは分かりませんが、両脇にたいへん素晴らしい樹木を植えられて、宇奈月温泉に向かう象徴的な道路、「シーニックバイウェイ」という横文字はあるんですが、そういう宇奈月に向かう、そしてまた国際観光都市を象徴できるような道路を整備したいと。道路は今整備しているんですが、ただの道路にしたいということで、いろいろ議論しております。

ただし、そういう道を造ると、どうしてもあとのメンテナンス、葉っぱ落ちたら誰が掃除をするのかとか、いろいろ言われます。それはやはり、そこまで含めて地域ぐるみで、素晴らしい樹木を植えたその大きな道、素晴らしい道を造ればやがて葉っぱは落ちる、それを地域ごとに掃除するような、そういうような仕組みを作っていくって、韓国の何とかの映画みたいような、そういうようなストーリーを、しかも宇奈月温泉まで通じる道として計画を今練っているところであります。

是非、そういうこともご理解いただきたいと思えますし、そういうものに合わせて当然、宇奈月温泉も、先程から総湯会館とかいろいろありますが、是非、宇奈月温泉らしさっていうものがどういうふうにかこれから、今までの観光とかなり変わってきとると思えますので、個人客、グループ、小グループで訪れる方、ゆっくりと訪れる方がこれから増える時代でありますので、宇奈月らしさをどう創りあげていくかっていうことは、それぞれの皆さん、地区の皆さんが一番大事だと思うんです。アイデアをデザインをしないと、私はこうしたいとか、自分はこうしたいっていうふうにか地区の皆さんが宇奈月地域のことを考えて、

やはり自分でデザインを描かなかつたら私は駄目だと思う。東京かどこかのコンサルとか設計会社に任したら、どこにでもあるようなものしかできてこないというのは実態だと思いますので、是非そういうところまで踏み込んでいただければありがたいというふうに思います。

【事務局】

よろしいでしょうか。はい、もう予定の時間も過ぎておりますが、最後どなたか。はい、最後お願いします。

【Jさん】

下立のJです。

最後に一つだけお願いですけど、先程からいろいろ話していましたが、老人の医療の面で一つお話したいんですけど、実をいいますと、黒部市民病院、地区にはたくさん私立病院があるんですけど、僕が見ている限りでは、病院入りますと3カ月経つと次の病院行ってくれと。何かたらい回しにされます。黒部市、新黒部市ですけど、おらハウスみたい施設が足りないんじゃないかと思っています。

というのは70歳の子供が90歳の親の面倒を見て、それで施設に入れなかつたら隣の市へ、隣の町へ行ってそういう施設に入ってもら。ちょっと何か理不尽じゃないかと思っていますので、その辺を今の計画の中に、これから高齢者が増えてくと思いますので、そういうことも充分に考えて施設が足りないなら増設するとか、そういうことも充分に考えて対処して欲しいと思っていますのでよろしく、これは要望でありますので回答はいいです。

【市長】

言い訳をさせていただきたいと思います。答えにはなりませんが。

介護保険で行っておりますそういう施設。黒部市にいくつかありますが、私は新川地域の介護保険組合の理事長を兼務しております。たいへん苦勞しております。今、認定を受けておられる方が3,000人ほどおられますが、今現在56億円ほど年間給付いたしております。

そこで施設が足りないのかどうかという事なんですが、国の指標からすれば施設は足りております、この地域は。そして、そういう施設入所されておりますと、大体ひと月30万円ほどかかります、介護保険の方で。国は、とにかく、これ以上増えたら困るということで、やっぱり居宅サービスを受けるように、そのために介護予防とかいろんな制度を作ってきているわけではありますが、施設に入られれば、当然、家族の方々の負担も減るわけではありますが、今の状況の中では施設を増やすことはできません。ですから何とかご家庭で介護いただけるように、そのための介護サービスのそういう制度がいろいろ作っていかれると思いますので、是非、そういうことでご理解いただきたいというふうに思っております。

それから病院の3カ月ルール、これはやはり、病院というのは治療するところでありますので、ある一定までの治療が終わった方は、療養は黒部市民病院の中ではできませんので、その方々については、退院をしていただくしか今のところございません。ベッド数が足りておりませんので、3カ月までが限度ということであります。あとは時間かけて療養って方は、そういう施設、あるいは自宅の中で介護を受けていただくということをお願いをしたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

【事務局】

それではもう相当時間も過ぎておりますので、ここらあたりで閉会させていただきたいと思います。

閉会にあたり堀内市長から本日お集まりいただきました皆様へのお礼も含めまして、ご挨拶申し上げます。

す。

【市長】

皆さん方におかれましては、たいへん長時間に渡って熱心にご議論いただきまして誠にありがとうございます。たくさんの宇奈月地区の皆さん方に集まっていたことに対して本当に嬉しく思っております。こういう場にできるだけ多くの皆さんの参加をいただいて、そしてまた、年齢層、あるいは男女を問わず本当に多くの方に集まっていたいて、まずはお互いにどういう状況になっているのか、どういう考えであるのかということ、是非共有したいというふうに思います。一部の人から聞いた話とか、一部のマスコミだけの話だけではなかなか理解もされてないところがたくさんありますので、是非こういう場で、直接話を聞いていただいて、そしてまた、いろんな意見を言っていたきたいというふうに思います。

ただ、先程も言いましたが、地区でも、きちっと要望活動をされておりますので、直接言えなかったりする方々については、是非、地区の役員の皆さん、あるいは今日も市議会議員の皆さんも来ておられますので、議員の皆さんを通してでもいいですから、是非、積極的にご意見ご要望を言っていたきたいというふうに思っております。

とにかく今の時代、行政ニーズといいますか、行政に対して、これもやって下さい、あれもやって下さい、要は社会がどんどん個人化していっていますんで、昔は地域とか、あるいは家族とかでいろんなことを行っていたものが、だんだん個人主義になって、そこでできないことは全て行政に頼むというようなことにだんだんなってきました。細かくは言いませんが、保育一つにしても本当に増えております。もう365日24時間保育してくれという話なんですね、基本的には、年末年始保育、一時保育、休日保育、病後児保育、病気になってある程度の治療まで終わって、あとは少し療養をするというような時にも保育として預かってくれと。これも今、黒部市でも行っております。そういうことでは本当に行政に与えられた責任というのは、たいへん重いものがございます。

ですから、そういう中で、限られた財政の中でやっておりますので、是非いろんな行政の悩み、皆さん方のご要望もお互いにしっかりと行って、そして、行政だけではできない部分は、それなら、これは私らボランティアでやりましょう、これは地域でやりましょう。いろんな仕組みを皆で作って、そして皆が希望する公共サービスっていうものを、それを全体で行政と市民の皆さんとお互い、それは、もしかしたら企業も含めて、あるいはNPO法人などの組織も含めて、お互いに協力し合って公共サービスに対する期待を全部で賄う、全うするということが大切だというふうに思いますので、これからは当然、行政もしっかりとやっていかなければならないわけですが、皆さんの方のご理解と本当にご支援、ご協力がたいへん大事なことだと思います。そういうことが、お互いに連携とれたところが住みやすいまちにつながってくのではないかというふうに思いますので、これからも、是非こういう場にも参加いただき、そしてお互いいろんなところで協力していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げて閉会の言葉にさせていただきたいと思います。どうかよろしくお願いをいたします。本当にありがとうございました。

【事務局】

皆さんお疲れ様でした。お忘れ物のないようにご確認下さい。またそしてアンケート用紙はご記入の上、会場出口の係りの者にお渡ししたいと思っております。どうも、ありがとうございました。